

原発ガーデン

奥宮誠次 (百年書房 540円)

英国の映画監督だったデレク・ジャーマン(1942～94年)は、52歳の若さで世を去った。「カラヴァッジオ」「ブルー」などの作品で知られ、生前はエイズウイルス(HIV)に感染していることを公言していた。

ジャーマンは86年、ロンドン南東のケント州ダンジネスに移り住む。原発が近くに建ち、漁師からも見捨てられた場所だった。だが、彼は庭造りを始めた。写真。草花が咲き、ガーデンングには流木、さびた鉄、貝殻なども使われ、荒地を飾っていた。

本書は写真詩集。著者はダンジネスの家を訪れ、晩年のジャーマンを撮り続けた。

「ゲイというマイノリティで、HIVという人生。彼は(捨てられた町)ダンジネスと自分を重ね合わせるところがあったのではないか」

レンズを向けていた当時の気持ちをそう振り返る。

